

株はハロウィンに買え？ ～注目される海外投資家の動向～

日本株式市場は、10月以降、堅調な推移となっています。2016年以降の海外投資家の月間売買金額をみると、10月は第3週までで4月に次ぐ買い越し水準となっており、年初から日本株式を売り越す傾向にあった海外投資家に変化の兆しがみられます。

株価が堅調な背景には、米国の景気回復を示唆する経済指標が相次いで公表されたことなどから、米国の利上げ観測が高まり、円安・米ドル高が進んだことが挙げられます。また、欧州や中国などの景気に改善傾向がみられることなどから、世界的に投資家心理が改善していることも要因と考えられます。

この時期の株式市場のアノミー(経験的に規則性があるものの、合理的に説明ができないこと)に、「ハロウィン効果」があります。これは、ハロウィンのある10月末から春にかけて株価が上昇する傾向にあるというもので、多くの世界の株式市場でこうした現象がみられます。明確な根拠はないものの、過去20年間の日米株式の傾向を見ると、10月末に買って、その半年後の4月末に売却した場合は、他の月に売買した場合よりもパフォーマンスが優れている傾向にありました。

今後の株式市場でハロウィン効果が発揮されるか定かではありませんが、米国大統領選挙において、政策に安定感のあるクリントン候補が優勢となっているほか、米国の12月の利上げが金融市場で織り込まれつつあることなどから、市場における不確実性の低下が投資家心理の改善につながっています。今後、米国の景気回復などを背景に、為替市場で円高懸念が後退し、日本企業の業績見通しが改善すれば、海外投資家の日本株買いが拡大すると期待され、日本株式市場の押し上げにつながると考えられます。

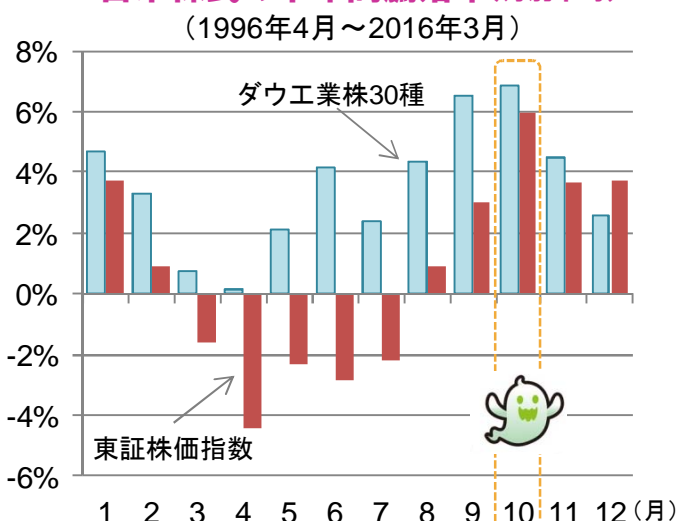
ハロウィンでは「Trick or Treat(いたずらか、ごちそうか)」と言いますが、海外投資家が「Trick or Trade(肩透かし、取引か)」のどちらになるか、その動向が注目されます。

日本株式と海外投資家の売買金額の推移



※海外投資家の売買金額(ネット)は、東京証券取引所および名古屋証券取引所における海外投資家の現物株の売り・買い金額の差引き

日米株式の半年間騰落率(月別平均)



※半年間騰落率は、半年間の騰落率(月末値、現地通貨ベース)を月別に平均したもの(例:1月末に買って、7月末に売却した場合の騰落率は1月分とし、過去20年分を平均)

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。